

補論 アンダマン・ニコバル諸島およびラクシャディープ諸島

1) アンダマン・ニコバル諸島

アンダマン・ニコバル諸島はインド洋のベンガル湾南部に位置する、インドの連邦直轄地である。北緯 10 度線の北側がアンダマン諸島、南側がニコバル諸島で、主都はポート・ブレアである。コルカタから南東海上 1220 km、インド政府がマラッカ海峡への航路を扼する位置にあり、防衛戦略上の要地となっているため国防上、および原住民の保護政策のために、外国人の立ち入りを制限している。滞在許可を得て外国人が滞在できるのは、アンダマンのポート・ブレアの他数か所である。ニコバルにはショペン族の保護のために入域できない。

572 の島々が 700 km にわたって帯状に分布している。面積は 8293 km²、人口は約 38 万人 (2011 年)、各部族の母語は、アンダマン諸語、ニコバル諸語であるが、ヒンディー語、タミル語およびベンガル語ほか新しい住民の出身地によって多くの言語が使用されている。1981 年のセンサスでは、約 19 万人の住民の宗教はヒンドゥ教、キリスト教、イスラム教は万余の信徒をもち、他の宗派は千人以下でも、多様であった

アンダマン *Andaman* は、マレー語でヒンドゥ教のハヌマーン神 *Handuman* に由来する。9 世紀頃にはアラブ商人がスマトラ海峡に向かう航海によって、その存在を報告していた。当時は密林に覆われ、マングローブの湿地があり、サメが横行する海域であった。ニコバルは、13 世紀のマルコ・ポーロによる、ニコベラン (裸) という記述が元になっている。先住民は石器時代と同様の伝統的な狩猟採集生活をおくっていたという。

その後、18 世紀にマラーター同盟によって占領された後、イギリスによって支配された。イギリスはアンダマン諸島を流刑地とし、インドおよび周辺国で反イギリス的な活動を行った政治犯などを送り込んだ。当時でも、先住民たちはイギリスの統治のなかでも狩猟・採集生活などにより自給自足の生活を営んでいた。農業はココナツの栽培など粗放的な限られたもので、イネ・コムギなどの主要穀物も雑穀類も生産されることはなかった。

小アンダマン島に居住するオンゲス族 Onges (1981 年センサス時で 96 人) は狩猟採集民であり、蜂蜜を集め、魚を取り、粘土でボディペイントをしていた。現在は居留地に住んで、ココナツ、バナナ、パパイヤ、根菜を栽培している (Bhargava 1983)。ジャワラ族 Jarawas (推定 100~200 人だったが 750 人かも知れない) は主に南アンダマン島と中アンダマン島に居住し、海産物、野生のブタ、根菜、蜂蜜を食料としていた。南アンダマン島に大きな保留地を持っている。センチネル族 Sentineles (推定 400 人) はボディペイント、ビーズや骨で身を飾っており、毒矢で侵入者を撃退する。アンダマン族 Andamanese は南アンダマン島に居住していたが、イギリスの支配によって、人口は激減した。1864 年には 3000 人ほどであったが、1981 年にはたった 28 人にまでなった (Tanta 1992)。

これらアンダマンの先住民族はネグрито negritos で背が低く、肌の色が黒く、髪の毛は羊毛の様にちじれるなどの特徴もあるが、大きな頭や顔の特徴で異なった点もある (Risley 1915)。一方、大ニコバル島のションペン (ニコバリス) 族 Shompens (1931年の約 200 人から 1961 年には 71 人に減少) はビルマ (ミヤンマー)、マレー、モンおよびシャン族との混成で、モンゴロイドである。現在、彼らは野菜を栽培し、デンマーク人によって導入された牛や豚の世話をしている (Discovery Channel 2004)。

インド亜大陸で栽培されている雑穀のうち、アワのみがアンダマン語で Tanahal と呼称されていた (Publications & Information Directorate 1986)。他の穀類に関しては呼称の記述が見つからなかった。

第二次世界大戦において日本軍は 1 万人規模でポート・ブレアに上陸 (1942)、駐屯し、アンダマン・ニコバル諸島をスバス・チャンドラ・ボースによる自由インド仮政府の統治下に置いた。一方、イギリスは東南アジア方面への反攻への足がかりとするため諸島の奪還を企画、海上封鎖を行い物資の補給を途絶させた。農業生産が行われていない島内では餓死者を出す事態となり、戦後、数十名の日本軍関係者が責任を負い、BC 級戦犯としてシンガポールにて処刑された。アンダマン・ニコバル諸島は、1947 年のインドの独立によりインド領となった。しかし、先住民は政府の開発計画を好まずに、ジャングルの中に生活の場を求めた。

開発を心配して、保留地を通して違法に道路が造られ、政府は先住民を強制的に再定住させると発表した。外部世界との接触が増すことで、森の中での獲物量を脅かし、病気に晒した。しかしながら、コルカタの高等裁判所は政府に再定住計画を中止するように、ジャラワ族の土地への侵入を避けるように命じた。外部者との接触は病気によって実際にアンダマン族 Andamanese の人々を失わせた。1981 年にはたった 29 人だけを残し、彼らの新しい故郷ストレイト島に移住し、ここは立ち入り禁止になっている。

2004 年 12 月 26 日、アンダマン・ニコバル諸島沿岸は約千年周期とされているスマトラ島沖地震による高さ 10m に達する津波によって、壊滅的な打撃を受けた。控えめな見積もりでも、この災害でアンダマン・ニコバル諸島では少なくとも 7,000 人が死亡したとされている (Andaman & Nicobar Administration Web site、アンダマン・ニコバル、Wikipedia、地球の歩き方 2001、Tanta 1992)。

2) ラクシャディープ諸島

ラクシャディープ諸島はケララ州西方 200 km、アラビア海に点在する珊瑚礁の島々である。すぐ南方にはモルジブ共和国が位置している。インド連邦直轄地 (面積 32k m²) で、観光開発が進んでいるが、滞在許可証が求められている。外国人旅行者はバンガラム島、アガッティ島およびカドマツ島のみ入域許可される (2006~2013 年)。美しい 36 の島々のうち 10 島にのみに人々が居住している。ほとんどの住民は南インドのマラバル海岸やスリランカから移住した人々で、人口は約 6 万人 (2001 年)、古くはケララ州の系統でヒンドゥ教徒だったが、現在ではイスラム教徒が多く、漁業とヤシ栽培を

中心に暮らしている（地球の歩き方インド 2001 年版、Wikipedia2018 など）。言語はマ
ラヤラム方言が多く用いられているが、ミニコイ島ではモルジブが近いので、マル語が
話されている（Discovery Channel 2004）。食文化に関しては不詳である。5 月半ばか
ら 10 月はモンスーン季になる。美しい島々での環境問題に関してはサンゴの白化、ご
みの漂着がある。

文献

- Bhargava, N. 1983, Ethnobotanical studies of the tribes of Andaman and Nicobar
Islands, India, I. Onge, Economic Botany 37(1):110-119.
- Discovery Channel 2004, Insight Guides India, APA Publications, Singapore.
- Publications & Information Directorate 1986, Council of Scientific and Industrial
Research, New Delhi, India.
- Tamta, B.R. 1992, Andaman and Nicobar Islands, National Book Trust, India.
- Risley, H. 1915, The people of India, ed. by W. Crooke 1991, Munshiram Manoharlal
Pubrishers, New Delhi, India.